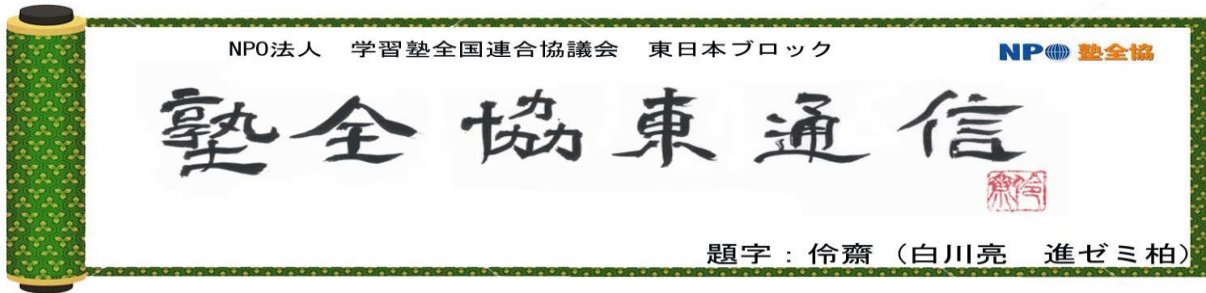


2022 年 1 月



令和 3 年度 NPO 塾全協 西日本ブロック

日時 : 12月12日(日) 午後7:00 開始 8:30 終了予定

会場 : Web(Zoom)上にて

参加者: 10 名



昨年度は奈良での予定で楽しみにしていたのですが、コロナ渦のため中止でオンラインに切り替わりましたが、今年もやはりオンラインで催すことになりました。東日本ブロックからも3名参加しました。オンラインとはいえ、久しぶりに「お会い」する方もおられ、楽しい一時となりました。次回こそ奈良で皆さんにお会い出来ればと思います。

東京地区主催 ミニ研修会 「どうする？塾の英語教育」

レポート

日時：2021年12月15日（水） 10：30～112：00

場所：Web上(ZOOM)

協力：(株)教育開発出版

レポーター：中村基和

第1部では各地の中1・1学期の定期試験問題を前年度と比較研究したレポート、第2部では同社の教材のプレゼンテーションをしていただきました。

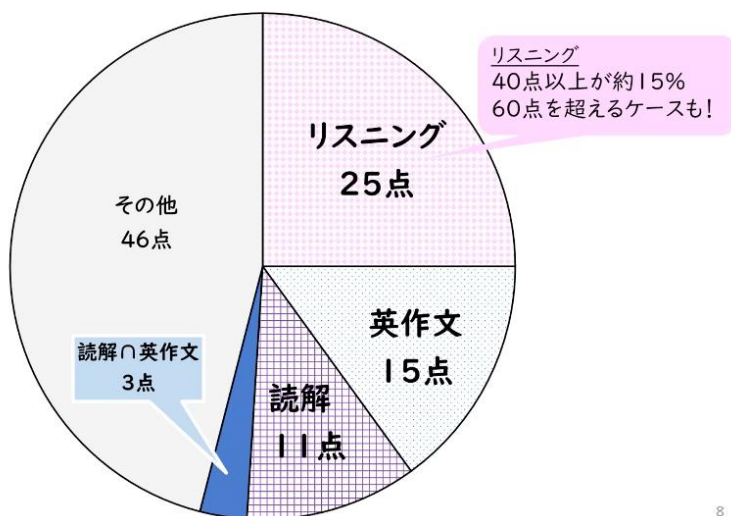
第一部 講演 「中1・1学期の英語の定期テスト分析に基づくご提案」

講師：((株)教育開発出版 企画推進室 室長 奈良氏

〔概要〕指導要領では倍に増えた語彙を「受容語彙（聞いたり読んだりすることを通して意味を理解出来るように指導すべき語彙）」と「発信語彙（話したり書いたりして表現できるように指導すべき語彙）」に分けてある。発信語彙（教科書の新出語彙で太字になっているもの）は1000語前後で、そのうち小学校の教科書出てくるものが3割～4割くらいである。新出の文法事項は仮定法、現在完了進行形、原形不定詞。4技能ではリスニングは主役級になった。その結果学校での語彙、文法の指導時間が減って行くことになる。



中1・1学期の英語の定期テストにおける技能別の割合は以下の通りだった。



（80校、4751問の集計結果！）

スピーキングはペーパーテストでは出題されておらず、ALTの先生の授業やプレゼンテーションが評価対象になったと思われる。

読解の8割は会話文。これは変わりがなかった。教科書の文章は全体の2割くらいにとどまり、先生のオリジナルが目立った。「初見率」は算出できなかったが、指導要領から察して増え

ていくものと思われる。1題当たりの平均語数は52語。また定期テスト1回当たりの平均語数は約84

語で、長文化したようではなかった。また正誤判定の問題が2割を占めた。スキミング（文章全体の趣旨をつかむ）とスキニング（知りたい情報を素早く見つける）の能力が求められる。

《読解の傾向 実用性を重視した問題》

例：次の自己紹介を読んで、あとの問いに答えなさい。

太郎：私はサッカーを毎日プレイします。しかし、野球はしません。
私は音楽が好きです。ピアノとギターを持っています。
しかし、ピアノはうまく弾くことができません。

花子：私はサッカーボールを持っています。毎日、サッカーをします。
私は音楽が好きです。ピアノとバイオリンを持っています。
でも、ギターは持っていません。毎日ピアノを練習します。

メイ：私は音楽が好きではありません。しかし、スポーツは好きです。
私は野球をプレイします。バレーボールと卓球もできます。
しかし、サッカーは好きではありません。

リアルな課題を解決
するための問いかけ

問1：文化祭の出し物で、ピアノの演奏を頼むとしたら、だれに頼みますか

問2：日曜日に野球の試合がありますが、メンバーが不足しています。だれに頼みますか

会話文は活字の羅列ではなく、会話がされている空間に身を置くような読み方が入試でも求められてくると思う。

例：次のジョンの自己紹介を聞いて、あなたがジョンに質問するとしたら
あとのア～エのうち、どれが適切か。記号で答えなさい。

こんにちは。僕はジョンです。オーストラリア出身です。
スポーツが好きで、サッカーができます。
僕は毎日サッカーを練習しています。それから、動物も好きです。
家ではネコとイヌを飼っています。どうもありがとうございます。

ア この国から来たか イ ペットを飼っているか
ウ 日本のアニメは好きか エ サッカーが好きか

上の答えはウ。他の3つだったらジョン君の話を聞いていないことになるので失礼、NG。我々は英語でも国語でも題材の中にあるもので答えるように教えられてきたが、ないものを答えさせるのが斬新である。

英作文は、和文英訳ではなく自己表現が目立った。

典型例：自己紹介を、次の指示にしたがって書きなさい。

- ① 自分の姓名を言う
- ② 出身地を言う
- ③ 年齢を言う
- ④ 好きな○○を言う／嫌いな○○を言う
- ⑤ できる／できない スポーツを言う
- ⑥ 演奏できる／できない 楽器を言う

例：次のような場合、英語で何というか、答えなさい。

- ①自分の好きな〇〇を伝えるとき
- ②近くにあるものを指して「これは何か？」を聞くとき
- ③相手が毎日英語を勉強しているか知りたいとき
- ④ジョン先生に「あなたは～できますか？」と尋ねるとき
(何と尋ねるかは自由に書きなさい)
- ⑤相手の言ったことが聞き取れなかったので、
聞き返したいとき。

シチュエーション提示型の設問が目立っている。

英作文のうち約 10%が読解問題

の小問として出題されている。

典型例1：次の問いに、対話文中のジョンになったつもりで答えなさい。

- ① Do you study English in the library ?
- ② Where do you practice soccer ?

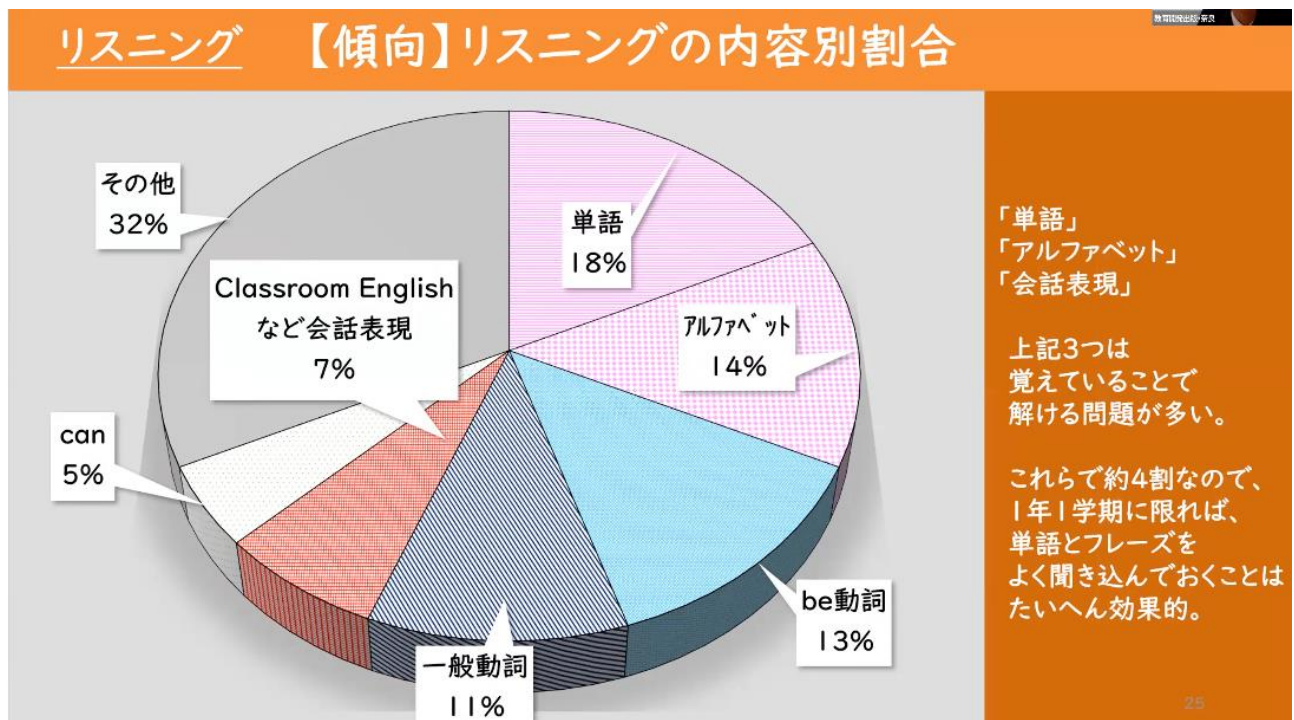
典型例2：あなたなら、英文中のジョンに、どんな質問をしますか。
3語以上の英文で書きなさい。

中1の英作文は、基本文が書ければ大丈夫。そして、基本文の文構造は、ほぼ確実に、問題用紙に出て来る。特に、1年1学期で頻出の自己紹介は、会話文読解があれば、そこに答えの半分はある。

自己紹介の英作文対策。テスト前に次の7つをノートやメモに書かせて、添削まで済ませておくと、試験当日迷わず、時短に繋がる。

- ① 名前 ② 出身 ③ 年齢 ④ 好きなこと ⑤ 出来ること ⑥ 好きではないこと
- ⑦ 出来ないこと

今回最もお伝えしたい部分がリスニング。



単語、アルファベット、Classroom English などの会話表現で4割を占めている。これからは音声をしっかり聴くことを習慣づけて行かなければならないと思う。

* 例えば can と can't のように not の聞き取りを確実にする必要がある。

* 2 語なのに 1 語に聞こえてしまう部分を練習する。例えば study it はほとんど“スタディ”に、like him は“ライキムの様につながって聞こえるなど、2 語なのに 1 語に聞こえる場所を意識する。

➡ 音声聞いてつながって聞こえる部分に下線を引くなどの印をつけて置き、意識して聴く。

(例 1) Shin: I can't do my English homework. Can you help, Amy?

Canに聞こえた

くっく kænju

(例 2) Amy: I'm sorry, I can't. But I can come in the afternoon.

batai くっく

くっく ほとんど聞こえない
kamin

Shin: OK. See you tomorrow.

こういうことを自分でメモることが大切だと思う。

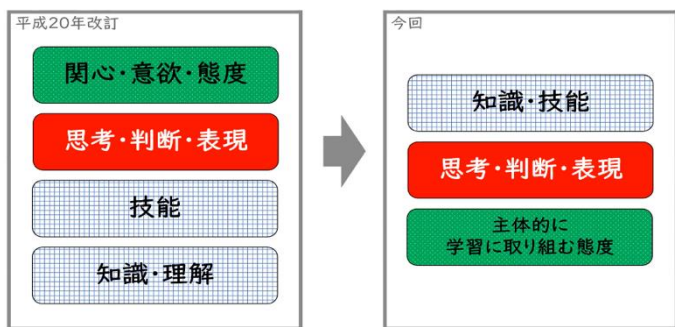
必ず実際に発音する習慣をつける

Classroom English は要注意。教科書のイラストとセットで、ビジュアル的に記憶すると効果的。

例えば “Open your textbooks.” と言ったら下のどちらかという問題では、どちらも当てはまるようにも見えるが、教科書では左の方が答えとなっている。



リスニングは評定でも影響が大きいと思われる。下の図のように思考・判断・表現が 1/3 を占めるようになった。



観点別:3段階
評 定:5段階
で表される

	1 学期		2 学期		3 学期	
	観点別	評定	観点別	評定	観点別	評定
知識・技能	A		B		A	
思考・判断・表現	A	4	C	3	A	5
主体的に～	B		A		A	

更に細かい評定の換算例もある。

観点別と評定の換算例①

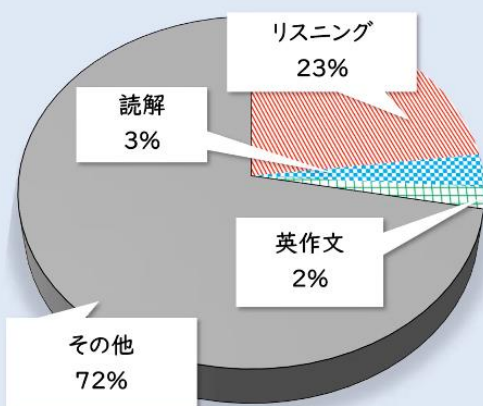
A=3点、B=2点、C=1点で計算

観点別評価	合計値	評定
CCC	3	1
BCC/CBC/CCB	4	2
ACC/CAC/CCA/ BBC/CBB/BCB	5	3
ABC/ACB/BAC/ CAB/BCA/CBA/BBB	6	
ABB/BAB/BBA/ AAC/CAA/ACA	7	
AAB/ABA/BAA	8	4
AAA	9	5

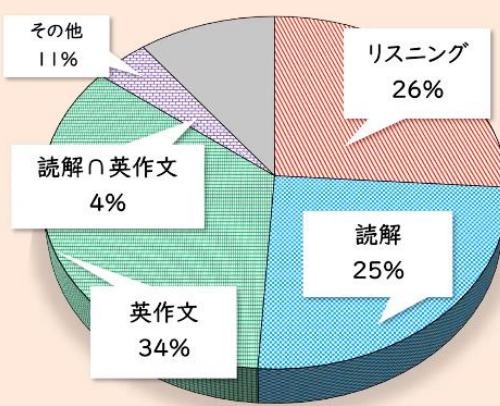
観点別

「知識・技能」「思考・判断・表現」のそれぞれの内訳

「知識・技能」におけるL/R/Wの比率



「思考・判断・表現」におけるL/R/Wの比率



➡どちらも、リスニングの比率は比較的高く、評定への影響が大きいと言える

「この子は大丈夫！」と思っていたら・・・

- ・リスニングは、全教科書で“当然のように”行われる活動となった。
- ・章のはじめや、レッスンのはじめに「まずは聞いてみよう」という誌面展開が多い。



リスニングのできる／できないが、
「学校の授業を楽しく受けられるかどうか」を左右



「文法・語彙はできるけど、リスニングだけは苦手」
という子どもは、苦手意識が醸成される可能性が高い。

➡これまでなら

成績上位者になっているはずの子が、学校の授業での
自己肯定感が低くなって、英語嫌いになりかねない



これまでなら成績上位の
文法は得意な子どもたち

△1

定期試験でリスニングが何%位出来ていたかもチェックして貰いたい。

その他

表記ルール問題の意外な落とし穴？

「文頭は大文字に」「文の最後にはピリオドをつける」などの表記ルールを問う設問では、
「エクスクラメーションマーク」「アポストロフィ」といったカタカナ語に注意。

アルファベット全26文字を順番に書かせる問題

5月上旬の定期テストに散見された問題。

難易度は低いが、大文字・小文字の計52文字書かせる学校もあった。正確さと素早さを磨きたい。

フォニックス系の出題

極めて少数だが、フォニックスルールを問うものもあった。

例：サイレントeに関する出題。

「name」などeで終わる単語は、

- ①終わりのeは読まない。
- ②その直前の母音はアルファベットと同じ読み方になる。

第二部 英語新教材のプレゼンテーション

(株)教育開発出版 東京 2 課 酒泉氏

オンライン英会話 Kyo-kai on E(GRET)だから出来ること

・学習指導要領に沿って英会話指導ができる！

- ➡新中学問題集に沿って授業展開
- ➡Keyワークに沿って授業展開
- ➡English Travelに沿って事業展開



授業での学習内容を発話することで知識定着させる

- ・研修を積んだ高スキルの外国人講師が完全マンツーマン指導
 - ➡ English Travel、新中間、Key ワークでの指導研修を徹底
 - ➡ 生徒の学力に応じて指導レベルを変化
- ・小学生から高校生まで幅広い指導コースが設定出来る
 - ➡ 小学生は英検 4～3 級取得を目指した指導を
 - ➡ 中学生は高校入試を見据えた高い英語力の習得を
 - ➡ 高校生は大学入試で必要となる資格試験対策に

専用の予約サイトでレッスンの一括予約が可能。

(月間一括予約、年間一括予約、30 分前もキャンセル可能、土日もレッスン可能)

レッスン前に、「ハイレベル」「通常」「初心者」の 3 つのレベル選択が出来る。

English Travel、新中間、Key ワークの紙面を見なが生徒と先生で話すと言う形になる。

受講中の画面

① 1対1のマンツーマン授業で行われるので 生徒のレベルに合った授業ができ 細かい発音のチェックまでしてくれます

② テキストと講師が一画面に表示されるので 画面だけに集中してレッスンを行うことができます

③ ヘルプボタンによって 生徒と教師のやりとりが円滑に進むようサポートします

④ 講師も生徒も画面に書き込めるので 言葉以外でもコミュニケーションが取れます



学習が終わってから先生の方から「評価」と「コメント」が届く。

すぐに「先生、分かりません!」とならない工夫をします

練習問題 解答時間のめやす 10分

練習問題

1 次の文に()内の語句を加えて経験の意味を表す現在完了形の文に書きかえるとき、 に適する語を書きなさい。

- (1) I wrote to Ms. Brown. (before)
→ I have written to Ms. Brown before.
- (2) She heard the song. (many times)
→ She has heard the song many times.
- (3) Did Maria see Mt. Fuji? (ever)
→ Has Maria ever seen Mt. Fuji?
- (4) He didn't give me a gift. (never)

分からないとき、「どこにヒントがあるか」「どこで習ったことか」がすぐに分かります。こちらは英語の例です。

3 次の日本語に合う英文になるように、 に適する語を書きなさい。

- (1) わたしは3回琵琶湖を訪れたことがあります。
I have visited Lake Biwa three times.
- (2) あなたはホワイトさんのことを耳にしましたか。
Did you hear of Mr. White?

ミュート

は問題が解けない場合のふり回り先を示しています。
は「基本文とポイント」のを見直しましょう。
は語句のチェックを見直しましょう。

Unit 3 ①

語句のチェック

◆次の英語は日本語に、日本語は英語になおしなさい。

- ① mark (印, マーク)
- ② trade (貿易)
- ③ discover (…を見つける, …を見いだす)
- ④ fair (公正な)
- ⑤ ever (疑問文で) (これまでに, いつか)
- ⑥ never (一度も…ない, いまだかつて…ない)
- ⑦ fair trade (フェアトレード)
- ⑧ hear of

定期テストのリスニング問題対策も出来る。

スマホをかざせば、映像解説

ここが通う!

確認問題で映像のポイントを確認! (下は英語の例です)

例文

I have visited New York many times.
have+過去分詞=～したことがある 何度も
(私は何度もニューヨークを訪れたことがあります。)